

特集 人とくるまのテクノロジー展2026横浜



展示会企画会議 藤本 直也 議長 (日産自動車執行職)

今年「コラボレーション・フォー・フューチャー・モビリティ」をテーマに、デジタルトランスフォーメーション(DX)と、業界を超えた「共創」のきっかけとなることを目指す。展示会企画会議の藤本直也議長(日産自動車執行職)に、テーマに込めた狙いや技術動向について聞いた。

「自動車産業におけるDXや共創活動の重要性は、現在の自動車技術の大きなテーマとして、DX」

「大手半導体メーカーなどの出展も増えている。異業種の方々と知り合える機会はない。ネームバリューを」

新たな仲間と何かを始める契機に

と、脱炭素化によるGX(グリーン)トランスフォーメーションがある。GXは自動車メーカーや部品メーカーなどが専門分野で技術を磨くのに、DXは無制限の価値を創造していく。さまざまな人たちが協業しないと実現できない領域が多い。ほかの誰かの専門性と掛け合わせ、価値をつくる場を提供することも自動車技術会の一の使命だ。

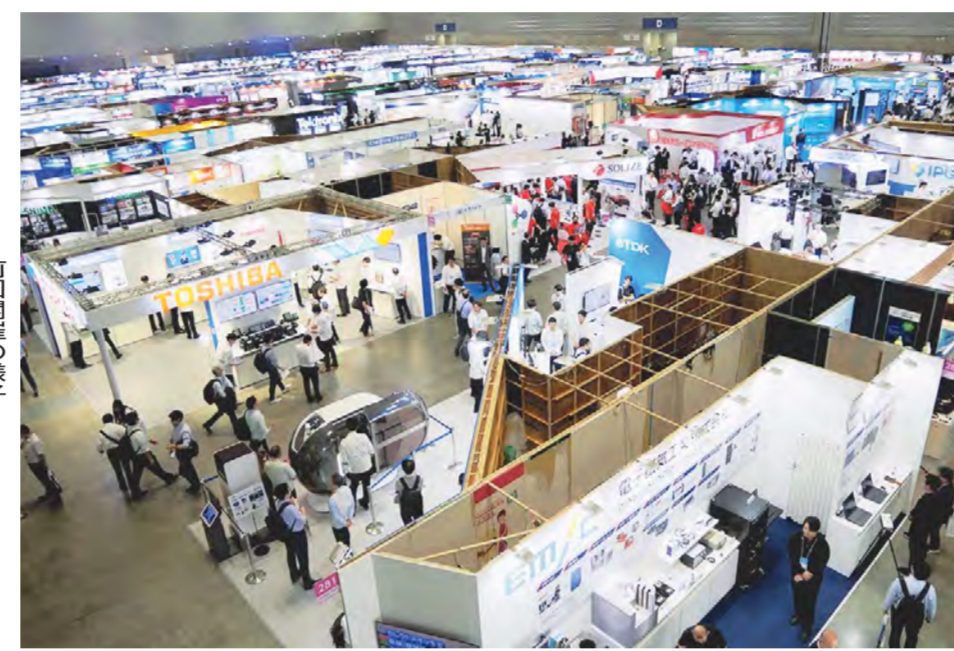
「展示会は製品の営業の場からつながりを生み出すプラットフォームに変化している。ビジネスを広げる場としての役割も大切だが、新たな仲間と何かを始めるためのきっかけづくりに力を」

「展示会では産官学の専門家が、新技術の動向などについて解説する。このうち経済産業省の担当者は、AI政策の動向と展望を紹介する。同省はAIを成長の柱と位置付け、利活用の促進、人材育成、ガバナンス(内部統制)の推進、」

「共創のプラットフォームとしての役割を担っている。自動車に関する領域は電気、制御、ソフトウェア、さらに材料業界など幅広い。例えば自動運転や開発、製造領域など、テーマ別にさらなる共創の場をつくる方法もある。今回は同時開催の『2026春季大会』で、自動車技術会を初開催する。さまざまな企業から、若手も含めてワイワイと交流できる場をつくってきたい」

モビリティはここから変わる

27~29日 パシフィコ横浜で



前開催の様子

自動車技術会が主催する「人とくるまのテクノロジー展2026横浜」が5月27~29日の3日間、パシフィコ横浜(横浜市西区)で開催される。「コラボレーション・フォー・フューチャー・モビリティ」モビリティは、「ここから変わる」と題し、過去最大規模となる612社が1516の小間を出展する。約8万人の来場が見込まれている今回は、人工知能(AI)関連をはじめ、世界中から最新の技術や製品、ソリューションが一堂に集結し、自動車産業の未来を展望する機会となる。

過去最大規模の出展

リアルでは33回目の開催となる今年、国内外のさまざまな出展者が自動車産業の枠にとらわれない提案を進め、活発な共創が進みそうだ。特に年初に米ラスベガスで開催された「CES2024」でも注目の集まった「AIとモビリティの未来」をテーマとした展示が増える見込みだ。

主催者展示も「新しい技術との融合で創るクルマとモビリティの未来」DXと共創で革新する「自動車技術」と題し、AIやビッグデータ、クラウド、ロボティクスなどを概観する。これまでとは異なる技術により、大きく姿を変えつつある自動車。自動運転やテレマティクスの進化にとまら

「展示会ではDXで実現するクルマの進化のクルマを取り巻く社会・サービスの進化③モノづくりの進化」という3つの視点から、企画展示や企画講演が準備されている。自動車技術会は「これまでの枠を超えた新しい共創の可能性を体感してほしい」と期待している。

「展示会ではAI開発などに取り組んでおり、最新動向に触れる好機になりそうだ。各出展者らの多彩なセミナーも実施される。自動車技術・産業および関連分野の最新動向や将来の展望を紹介する講演会も開催される。

「共創のプラットフォームとしての役割を担っている。自動車に関する領域は電気、制御、ソフトウェア、さらに材料業界など幅広い。例えば自動運転や開発、製造領域など、テーマ別にさらなる共創の場をつくる方法もある。今回は同時開催の『2026春季大会』で、自動車技術会を初開催する。さまざまな企業から、若手も含めてワイワイと交流できる場をつくってきたい」

多彩な講演やセミナーを用意

リアル開催ならではのさまざまな講演・セミナーも用意されている。新車開発の講演では、3代目となる日産「リーフ」や、マツダの新型「CX-5」、スズキ初の電気自動車「eパワー」の開発責任者が登壇する。

企画講演では産官学の専門家が、新技術の動向などについて解説する。このうち経済産業省の担当者は、AI政策の動向と展望を紹介する。同省はAIを成長の柱と位置付け、利活用の促進、人材育成、ガバナンス(内部統制)の推進、

Innovation Driving Productivity

モビリティの新章へ。

TE connectivity

人とくるまのテクノロジー展 2026
Automotive Engineering Exposition 2026
YOKOHAMA
展示ホールA NO.522

© 2026 TE Connectivity. TE and TE connectivity (logo) are trademarks owned or licensed by the TE Connectivity plc family of companies.



その居心地の良い空間は、
トヨタ紡織のある空間です。

QUALITY OF TIME AND SPACE

すべてのモビリティへ「上質な時空間」を提供



高分子の可能性を追求し、
より良い移動と暮らしを未来につなぐ会社



エアバッグ ハンドル フロントグリル 高圧水系タンク ドアガラスラン



トヨタ紡織

豊田合成は、創業以来70年以上にわたって、ゴムやプラスチックなどの高分子素材を用いた自動車部品を手掛けている。2030年に向けた事業計画では、ビジョンとして「高分子の可能性を追求し、より良い移動と暮らしを未来につなぐ会社」を掲げており、「安心・安全」「快適」「脱炭素」という価値を広くお届けしていくことを目指している。

豊田合成

本展示会では、モビリティの変化や脱炭素化に対応した製品・技術を中心に紹介する。同社の強みであるゴムやプラスチック分野の将来技術を搭載したコンセプトカーや、側面衝突時に乗員同士の接触を防ぐ新構造の「前席センターエアバッグ」、部品の成形と塗装を同一工程の金型内で行い、生産時のCO₂排出削減と意匠性向上に貢献する「インモールドコート技術」、ゴム・プラスチックの自動車部品の廃材を高品質な材料に戻し、同じ部品に再利用する「水平リサイクル技術」などを紹介する。

モビリティ変化や脱炭素に対応して

1への対応では、多機能ブロックシート「TBBlocks」(ティープロックス)を初出品する。背面・座面・側面をブロック化することで、易解体性が向上し、リサイクル性を高めた新構造のシートだ。ウレタン使用量も削減させ、CO₂排出量の低減に寄与する。また、体圧分散とホルド性を高め、快適性と運転安定性を向上した。



TE Connectivity Japan

コネクティビティおよびセンサ分野の世界的なリーディングカンパニーであるTE Connectivityは、「Innovation Driving Productivity」をテーマに出展する。自動車や電動化、車載ネットワークの高効率化、次世代AIキックチャイへの対応が求められる自動車業界

出展各社の見どころ



次世代モビリティを支える多様な接続ソリューション

界に向けて製品・技術を紹介する。ブースでは、小型化、軽量化、作業性向上に対応する低圧コネクタソリューションをはじめ、車載ネットワークやインフォテインメント、ADAS用途の高速通信ソリューション、高電圧・大電流向けのパワートレインや各地域に対応する充電インレットなどのE-モビリティソリューション、二輪車向けソリューションを展示する。また、フレキシブルプリント基板(FPC) / フレキシブルフラットケーブル(FFC) / ピアッシング機のデモンストラーションも実施し、軽量化、省スペース化や生産現場の効率化に向けた提案を行う。TEは、これらの展示を通じて、日本のモビリティ産業の未来を共に創る技術パートナーとして、顧客の設計・開発・生産における課題解決を支援し、生産性向上とコスト最適化への貢献を目指す。

安全・快適・環境をトータルに提案

トヨタ紡織は、「Integration for Future Vehicle」安全・快適・環境の価値を統合し、未来の移動空間を拡張する「コンセプト」に製品・技術を紹介する。カーボンニュートラル・サイキウーエコノミー

快適な移動空間の提供では、「面発光イルミネーション」加飾のドアトリムを初出品する。表面素材や透過技術を活用し、多彩なアニメーション表現によって車室空間を彩る。次世代移動空間モデル「I.C.300 Integrated Cabin 2030」では、周囲の状況を音と振動で知らせる機能を搭載したシートや走行位置に合わせた映像や音を流すコンテンツ体験システム等、開発を進めている製品を紹介する。



スズキのEV。
躍動の走り。

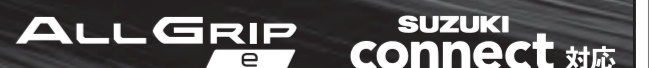


カーオブザイヤー
特別賞
受賞

走りに胸高鳴るEV×SUV。

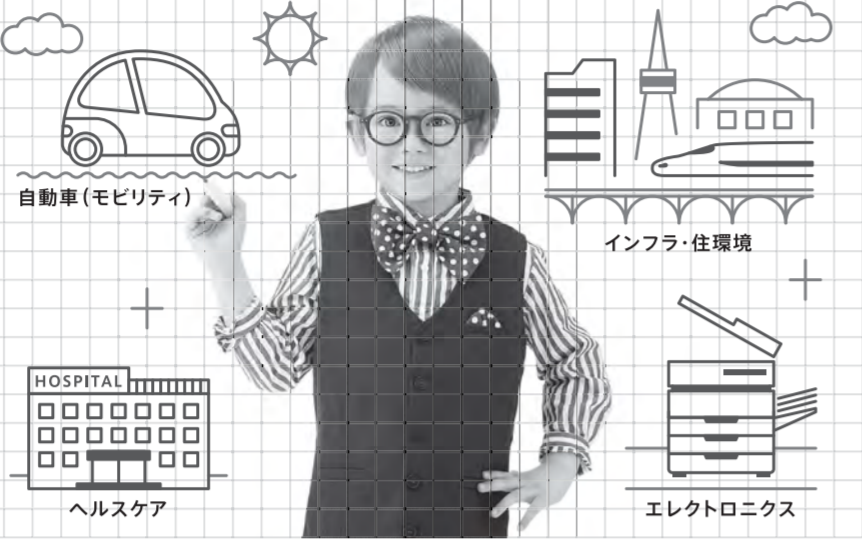
e VITARA

e ビターラ



リコウな未来、 理工の技術で。

住友理工は、
人とモノ、モノとモノの間で、
リコウな未来づくりを
サポートしています。
安全、快適、そして環境に
役立つこと、
暮らしのあちこちで
がんばっています。



住友理工

未来が変わる。 発想が変える。

三井化学の原動力。
それは、止まない好奇心。
そこから生まれる発想力。

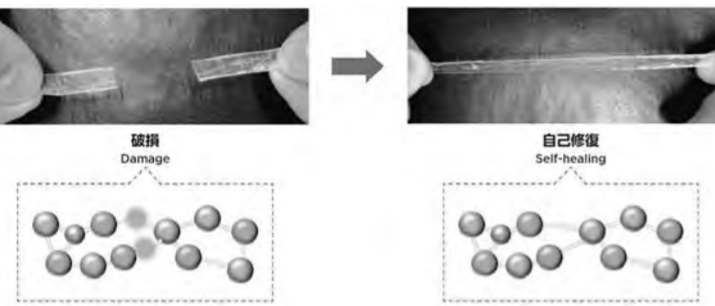
一人ひとりの創造性を結集し、
何もないところからイチを生み出す化学の力で
多様な未来を実現する。

0→1 MAKE IT HAPPEN



三井化学
www.mitsuichemicals.com

自己修復ゴムイメージ



住友理工

クルマを社会インフラの一部として

住友電気工業・住友の
装と共同出展する今回の
ブースでは、「モビリティ
とエネルギー/情報通
信の融合」をテーマに、
クルマを社会インフラの
一部として捉え直した次
世代モビリティ社会の姿
を提案する。合わせて、
クルマの進化に対応し高
度化してきた住友電工ク
ルマの車載製品群を展
示し、将来モビリティに
「自己修復ゴム」の情報

に向けた技術の広がりを紹介する。同グループは
本展示会にて、長年にわ
たり市場に採用されてき
た製品の進化の軌跡とし
て、「自動車用防振ゴ
ム」「eAxleマウン
ト」「eAxleカバ
ー」「SR(スマートラ
バー)センサ」を展示す
る。また、次世代モビ
リティ社会を支える技術
や、将来の事業化を見据
えた研究テーマとして
「自己修復ゴム」の情報
発信を予定している。
特に、「自己修復ゴ
ム」は、損傷後に自己修
復する、または簡単な処
理で修復される特性の実
現を目指し、理化学研究
所と研究を進めている。
従来のゴムと自己修復ゴ
ムの比較試験を実施した
ところ、耐久性向上の傾
向が確認され、自己修復
性が材料の長寿命化に寄
与する可能性を確認し
た。自己修復ゴムが実現
されれば、製品寿命の延
伸、廃棄物の削減、メン
テナンス負荷の低減など、
環境・コストの両面
での効果が期待される。

三井化学

三井化学は「人とくる
まのテクノロジー展20
26」で、カーボンニュ
ートラル(CN)やサー
キュラーエコノミー(C
E)、デジタルトランス
フォーメーション(D
X)を軸に、素材単体
にとまらないソリューション
提案を打ち出す。プ
ースはCN・CE特設、
協業・共創、ソリューション
の3エリアで構成す
る。CN・CE分野では、
従来のパネル中心の展示
から一歩進み、実物を展
示し見て触れて体感でき
るブース構成とする。大
手コンビニや小売り、プ

素材を超えた多様な ソリューション

ランドオーナーなどで採
用されているレジ袋、食
品包材、食器、飲料ポ
ットなどを中心に展示す
る。原料はすべてマスバ
ランス方式によるバイオ
マス材やリサイクル材が
採用されており、幅広い
分野への展開例を紹介し
取り組みの社会実装が進
んでいることを示す。
協業・共創エリアで
は、スキンバック包装が
可能な吉川工業の真空包
装機の装置を展示する
とともに、実機を用いたデ
モストレーションを実施
する。スキンバック包装
材「ハイミラン」を活用
し、非食品分野における
スキンバック包装の新た
な用途提案により、素材
の活用範囲を拡大する。



と装置を組み合わせた共
創の取り組みを紹介。
ソリューションエリア
では、3Dプリンティン
グ向け材料「TAENE
X AM」などを活用し
た部品開発支援を展開。
ペレット材料を直接使い
の造形方式にも対応し、
材料メーカーとしての強
みを生かした提案を行
う。繊維強化樹脂など同
社の材料群を活用し、少
量多品種生産への対応な
ど新たなモビリティニ
ズに対応する。
横浜・名古屋の両会場
で展開する。ブースでは
シースルーLEDを活用
した演出も取り入れ、来
場者の視覚に訴える展示
とする。



アイシン

移動に感動を 未来に笑顔

アイシンは、リアルな
移動の進化に貢献するだ
けでなく、人々の「心」
を動かすようなあらゆる
移動体験を世界中の
人々に提供することで、
経営理念である「移動
に感動を、未来に笑顔
を。」の実現を目指し
ている。
今回のブースでは、
「ユーザーに寄り添う走
り・乗り心地」と「安全
技術のつながりを可視化

・安心、快適な移動体
験」をテーマに、「移
動」の価値を創造する製
品・技術を展示する。
「ユーザーに寄り添う
走り・乗り心地」のソ
リューションでは、クル
マの電動化に貢献する
車両統合制御を体感
的に体感する。また、
今回出展のシリーズパ
ラレルハイブリッドト
ラクションについては、
3Dホログラムの展
示を通じて、内部構造
や技術のつながりを可
視化する。

「安全・安心、快適な
移動体験」のソリュー
ションでは、人の動きを認識・先
読みすることで快適な乗
降を実現する「インテリ
ジェントヒラートユニ
ット」をはじめ、より安全
でシームレスな移動体験
を支える「生成AIを活
用したLBSエンジン」
「さらに安心・便利な
コミュニケーションを支
援するリアルタイム音声
認識アプリ「YYSYS
tem」などを展示する。

VECTOR

人とくるまのテクノロジー展 2026
YOKOHAMA 5/27 [WED] - 29 [FRI]
PACIFICO YOKOHAMA (パシフィコ横浜)
ベクターブースまでお立ち寄りください /
カテゴリ:ソフトウェア ブース/ブース N81

ENSURE THE SUCCESS OF YOUR SDV

SDV 開発を成功に導くベクターのソリューション

ベクター・ジャパン株式会社

www.vector.com/jp/ja/



BOURNS®

高精度センシングと確かな保護で 車載システムの信頼性を支える



詳しくはQRコードへ

人とくるまのテクノロジー展
2026 YOKOHAMA

会期 | 2026.5.27(水) ~ 29(金)
会場 | パシフィコ横浜 Booth: 521
時間 | 10:00 ~ 17:00

www.bourns.com

Intelligence for Mobility

出展ブース N96

Intelligence for Mobility

ELECTRIC VEHICLEとAIの「これから」を見つめて
データドリブン開発で次世代モビリティを切り拓く

人とくるまのテクノロジー展 2026 YOKOHAMA
Automotive Engineering Exposition 2026 YOKOHAMA

NTT DATA
株式会社NTTデータ オートモビリティエンス研究所

Technical Laboratory

人とくるまのテクノロジー展 ブースNo.197
Automotive Engineering Exposition

自動車開発を次のステージへ
リアルとバーチャルが融合する、鷺宮製作所「Technical Laboratory」
そこで展開される最先端の検証環境が、開発プロセスを劇的に革新します。
未来の現場を、ぜひ「人とくるまのテクノロジー展」でご体感ください。

株式会社 鷺宮製作所
dynamic-servo@saginomiya.co.jp

本社 TEL 03-6205-9126 FAX 03-6205-9127
〒169-0072 東京都新宿区大久保 3-8-2 新宿ガーデンタワー 22 階

SAGINOMIYA
www.saginomiya.co.jp

BOURNS

電子部品ソリューションのリーディングカンパニーであるBOURNSは、5月27日から29日(金)までパシフィコ横浜で開催される「人とくるまのテクノロジー展2026横浜」に出展する。

本展示会においてBOURNSは、電動化が加速する自動車市場に向けた最新の車載ソリューションを紹介。今回はバッテリーマネージメントシステム(BMS)、車載充電器(OBC)、電子制

御ユニット(ECU)、およびADAS分野における高信頼性・高性能製品にフォーカスし、次世代モビリティの実現を支える技術をご提案する。

BOURNSの磁気部品ソリューションは、DC-DCコンバータの高精度化や電流測定の高精度化、さらには電磁両立性(EMC)対策に貢献

また、車載充電システム向けには、回路保護、電流検出、EMC対策を統合した包括的なソリューションを展示。AC入力からDC出力までの各段階において高い信頼性と安全性を提供し、電動

ジャトコ

ジャトコは「技術と情熱でモビリティの可能性を拓く」というコーポレートバスの下、カーボンニュートラルなど社会課題の解決に向け、自動車事業と新規事業の両輪で事業変革を進めている。今回の展示では「電動パワートレイン、新規事業の芽吹きを盛り」をテーマに、電動化および新規分野で市場展開を進める製品・技術を紹介する。

自動車事業と新規事業の両輪で事業変革を進めている。今回の展示では「電動パワートレイン、新規事業の芽吹きを盛り」をテーマに、電動化および新規分野で市場展開を進める製品・技術を紹介する。

また、竹繊維を高配合し放置竹林などの地域課題解消に貢献する環境に配慮した材料「BAMB00+」(バンブープラス)を自動車部品として初採用したLEXUS新型ISのオーナメント「Forged bamboo」など、持続可能な社会の実現に貢献するさまざまなアイテムを紹介する。

東海理化

車をはじめとするモビリティ業界を取り巻く環境の変化は著しく、求められる価値や機能も多様化している。東海理化が培ってきた技術を生かし、「人に寄り添うモビリティ」をコンセプトに、次世代の車室内空間を体感できる車両展示と持続可能な社会に貢献する材料技術を提案。

次世代のMobility Lifeにおける新しい体験価値として、姿勢を変えたり、動きを捉えることで意のままに空中操作ができる「モーションセンシング&五感フィードバック」眠気や疲労など「気づかない変化」を検知し覚醒を促すことで、事故や心身の不調を未然に防ぎ、安全安心に貢献する「バイタルセンシング&五感フィードバック」などさまざまな体験価値を提案

また、竹繊維を高配合し放置竹林などの地域課題解消に貢献する環境に配慮した材料「BAMB00+」(バンブープラス)を自動車部品として初採用したLEXUS新型ISのオーナメント「Forged bamboo」など、持続可能な社会の実現に貢献するさまざまなアイテムを紹介する。

鷺宮製作所

総合試験メーカーである鷺宮製作所は、1964年に試験機事業を開始して以来、自動車開発を支えるさまざまな試験装置を提供してきた。開発車両を仮想空間で体感できるドライビングシミュレーター「DiM」を、モデルベース開発において欠かせない存在である。さらに、車両モデルの一部を実車載部品(リアル)に置き換えて評価を行う「HILS」や、高精度な車両モデル構築を支える「動特性試験機・性能試験機」など、MBDプロセスを支援する試験装置をトータルで提供している。MBDを高度に活用するために、シミュレーションと連動して動作する高応答なアクチュエータと、高精度な制御技術が不可欠である。鷺宮製作所は、長年にわたる培ってきた試験機技術と制御ノウハウにより、これらの要求に答えてきた。

一人ひとりのテクノロジー展2026では、リアルとバーチャルの両面から自動車開発に貢献する各種製品に加え、リアルデータをシミュレーターへ活用する試験ソリューション「AMAS(Advanced Assistant System)」の検証内容や具体的な活用方法を、動画やタッチパネルを用いて分かりやすく紹介する。

また、昨年9月に鷺宮製作所 狭山事業所内にオープンした試験センター「サギノミヤ テクニカルラボラトリー」により実現する、新たな試験環境と今後の可能性についても提案する。

BOURNS

車内の充電効率向上に貢献する。プッシュプルトランスやフィルタチョークなどの製品群により、高電圧環境における安定した性能を実現し、車載設計の最適化をサポートする。

また、車載充電システム向けには、回路保護、電流検出、EMC対策を統合した包括的なソリューションを展示。AC入力からDC出力までの各段階において高い信頼性と安全性を提供し、電動

また、竹繊維を高配合し放置竹林などの地域課題解消に貢献する環境に配慮した材料「BAMB00+」(バンブープラス)を自動車部品として初採用したLEXUS新型ISのオーナメント「Forged bamboo」など、持続可能な社会の実現に貢献するさまざまなアイテムを紹介する。

電動パワトレ事業・新事業 芽吹きを盛りへ

自動車事業と新規事業の両輪で事業変革を進めている。今回の展示では「電動パワートレイン、新規事業の芽吹きを盛り」をテーマに、電動化および新規分野で市場展開を進める製品・技術を紹介する。

また、竹繊維を高配合し放置竹林などの地域課題解消に貢献する環境に配慮した材料「BAMB00+」(バンブープラス)を自動車部品として初採用したLEXUS新型ISのオーナメント「Forged bamboo」など、持続可能な社会の実現に貢献するさまざまなアイテムを紹介する。

人に寄り添うモビリティを提案

東海理化が培ってきた技術を生かし、「人に寄り添うモビリティ」をコンセプトに、次世代の車室内空間を体感できる車両展示と持続可能な社会に貢献する材料技術を提案。

また、竹繊維を高配合し放置竹林などの地域課題解消に貢献する環境に配慮した材料「BAMB00+」(バンブープラス)を自動車部品として初採用したLEXUS新型ISのオーナメント「Forged bamboo」など、持続可能な社会の実現に貢献するさまざまなアイテムを紹介する。

サギノミヤ テクニカルラボラトリーで新たな試験環境を提案

総合試験メーカーである鷺宮製作所は、1964年に試験機事業を開始して以来、自動車開発を支えるさまざまな試験装置を提供してきた。開発車両を仮想空間で体感できるドライビングシミュレーター「DiM」を、モデルベース開発において欠かせない存在である。さらに、車両モデルの一部を実車載部品(リアル)に置き換えて評価を行う「HILS」や、高精度な車両モデル構築を支える「動特性試験機・性能試験機」など、MBDプロセスを支援する試験装置をトータルで提供している。MBDを高度に活用するために、シミュレーションと連動して動作する高応答なアクチュエータと、高精度な制御技術が不可欠である。鷺宮製作所は、長年にわたる培ってきた試験機技術と制御ノウハウにより、これらの要求に答えてきた。

一人ひとりのテクノロジー展2026では、リアルとバーチャルの両面から自動車開発に貢献する各種製品に加え、リアルデータをシミュレーターへ活用する試験ソリューション「AMAS(Advanced Assistant System)」の検証内容や具体的な活用方法を、動画やタッチパネルを用いて分かりやすく紹介する。

また、昨年9月に鷺宮製作所 狭山事業所内にオープンした試験センター「サギノミヤ テクニカルラボラトリー」により実現する、新たな試験環境と今後の可能性についても提案する。

LINK TO YOUR HEART.
人を見つめ、人に寄り添い、人とつなぐ。

感動をかたちに

TOKAI RIKKA
株式会社 東海理化

Jatco

変化を楽しめ

自動車業界は今、100年に一度の大改革。それは、ピンチじゃなくて、チャンスなんだ。これまで培ってきたトランスミッションの技術を活かして、どんなモビリティが生まれるだろう？ 進化しつづける技術と、変わらない情熱とともに。挑もう、進もう。今この時代を楽しまなければ、モノづくりの会社じゃない。

技術で未来を切り拓く。
ジャトコはモビリティ・イノベーターへ。

ジャトコ株式会社
www.jatco.co.jp

Collaboration for Future Mobility

モビリティは、ここから変わる

国内最大級の自動車技術展

展示総面積 約26,500㎡
出展社数 600社以上
出展小間数 1,500小間以上

*展示総面積は、展示ホール・ノースの総面積です。出展小間数および出展社数は4月27日(月)時点での予定数です。

人とくるまのテクノロジー展
Automotive Engineering Exposition
2026 YOKOHAMA

パシフィコ横浜

展示ホール・ノース 10:00-17:00
5/27(日) 28(月) 29(火)
ONLINE STAGE 1 5/19(日)-6/9(日)

事前来場登録受付中

本展示会は、事前登録制(無料)です。当日登録の受付はございません。ご来場前に、必ず事前登録をお済ませください。
https://aee.expo-info.jsae.or.jp/ja/

JSAE 企画テーマ

新しい技術との融合で創るクルマとモビリティの未来 -DXと共創で革新する自動車技術-

NEW ソフトウェアゾーン 「走る」の定義を塗り替える、次世代モビリティの中核がノース会場に集結！
ソフトウェアゾーンに隣接する「モビリティDX/イノベーションステージ」では、業界のトップランナーが「ソフトウェア起点」の戦略を語り尽くします！

その他の企画も充実！
JSAE企画展示/JSAE企画講演/新車開発講演/フォーラムYOKOHAMA/出展社セミナー ほか

主催：公益社団法人自動車技術会

センサー・テクノロジー

センサー&高電圧デバイス新シリーズ展開

センサー・テクノロジーは、世界的実績のある圧力・温度・荷重センサーや高電圧コンタクターおよび速断ヒューズで、内燃機関車からバッテリーEVまで幅広くサポートしている。

高電圧デバイスとしては最大1000V/600A対応のセラミックコンタクターに加えて、2つの新シリーズを展開する。1つは過電流の自動遮断機能を搭載したコンタクター、FBCシリーズだ。最大16kA/1000Vを2ミリ秒以内に自動遮断する。遮断後の復帰も可能なため、部品交換の工数や費用、および車両が走行不能となった場合のリスクを軽減する。遮断システム設計の簡素化と低コスト化を実現する製品だ。

もう一つの新品は、

内燃機関車からEVまで幅広くサポート

「人」とくるまのテクノロジー展 2026 横浜でも展示・紹介される。

内燃機関向けとしては、既存の圧力・温度センサーを継続して提供するほか、新たにPMセンサーを加えるなどラインナップを拡充している。このほか、荷重測定によるX-by-Wire表現の推進や、R290対応のガスセンサーでフロン代替冷媒対応をサポートするなど、専門メーカーの強みを生かしたソリューションを提案する考えだ。



量産が始まっており、「人」とくるまのテクノロジー展 2026 横浜でも展示・紹介される。

内燃機関向けとしては、既存の圧力・温度センサーを継続して提供するほか、新たにPMセンサーを加えるなどラインナップを拡充している。このほか、荷重測定によるX-by-Wire表現の推進や、R290対応のガスセンサーでフロン代替冷媒対応をサポートするなど、専門メーカーの強みを生かしたソリューションを提案する考えだ。

株式会社センサ・テクノロジー
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1
〒222-0292 神奈川県横浜市港北区新横浜2丁目3番12号 新横浜スクエアビル7階
お問い合わせ先 info-stj@stj.sensata.com

SDS開発 世界のエンジニア支援

ベクター・ジャパン

ベクター・ジャパンは、ソフトウェア・デファインド・システム(SDS)開発のためのソリューションを提供するリーディングカンパニーである独Vector



関連ソリューションを紹介

の業績と技術力を基盤に、医療機器、IoT、鉄道、航空宇宙といった分野における複雑なソフトウェア・システム開発を支援している。現在、14カ国32拠点で世界中の開発エンジニアをサポートしている。

本展示会では、ソフトウェア・デファインド・ピクセル(SDV)、継続的インテグレーション、継続的テスト(CI/CT)、コード品質、計測の4つのテーマに焦点を当て、関連ソリューションをデモと共に紹介する。

同社はSDV分野で、複数の自動車メーカーやサプライヤー、業界パートナーと協力し、欧州をはじめとする開発プロジェクトを成功に導いた実績を有する。なお、同社は7月1日に、組み込みソフトウェア分野の最新トレンドを紹介するオンラインイベントを開催する。参加申込は同社ウェブサイトにて受け付ける。



人とくるまのテクノロジー展 YOKOHAMA セミナー紹介

会場 横浜会場 パシフィコ横浜 2F アネックスホール
F201+F202 (定員: 約300名)
ONLINE オンライン展示会 Web サイト内

聴講 無料(事前登録制) ※事前来場登録いただいた方のみご予約いただけます
アーカイブ配信は6/2(火)~6/9(火)を予定しております
※JSAE 会員限定配信は6/10(水)~6/17(水)を予定

JSAE 企画講演

経済産業省の AI 政策の動向と展望

経済産業省は、AI を今後の成長の柱と位置づけ、利活用の促進、人材育成、ガバナンスの推進、国産 AI 開発など、総合的な取組を実施しています。今回は、それらの政策動向及び今後の展望についてお話しします。

5/27 (水) 10:30 ~ 11:30

講師 経済産業省 商務情報政策局 情報技術利用促進課 兼 情報産業課 AI 産業戦略室 / 情報技術利用促進課長 兼 情報産業課 AI 産業戦略室長 渡辺 琢也 氏

SDV で変わる。次世代モビリティの設計・生産、自動車部品業界への影

100 年に一度の変革と言われる大きな波が自動車産業に押し寄せています。その中でも産業構造を変えるほどの大きなうねりが、電動化と SDV によるコネクテッドカーへの潮流です。本講演では、SDV の基本から、データと AI がもたらすモビリティ産業の未来像まで、事例を交えながらわかりやすくお話しします。

5/27 (水) 13:00 ~ 14:00

講師 電動モビリティシステム専門職大学 准教授/ジャーナリスト/ストラテジスト 川端 由美 氏

新車開発講演

新型日産 LEAF の魅力と磨き上げた実用性能

3 代目となる「日産リーフ」は 70 万台の販売実績と 280 億 km の走行データを基に、EV ならではのスーッと滑らかで力強い走りや EV の実用性を進化させました。本講演では、効率の追求を合言葉に開発した高い空力性能、新型パワートレイン、統合熱マネジメントシステムに加え、先進の運転支援技術や EV 専用 Google ナビなどの技術革新について紹介します。

5/27 (水) 15:30 ~ 16:30

講師 日産自動車株式会社 第二製品開発本部 第二製品開発部 第一プロジェクト統括グループ 次席車両開発主管 樋渡 伸二 氏

人と AI が共に進化する工場 —デジタルツインが創る次世代ものづくり—

デジタルツインと CPS 基盤を活用した「人と AI が共に進化する工場」について講演します。データ連携や可視化から、AI や量子技術による自律的な最適化・制御へと進化する「CPS 2.0」の概念を提示。技術革新に加え、働く人のウェルビーイングも実現する次世代のものづくり戦略をご提案します。

5/28 (木) 10:30 ~ 11:30

講師 東京科学大学 総合研究院・教授 藤澤 克樹 氏

レベル 4 自動運転トラックでの幹線輸送サービス実現に向けた技術開発

レベル 4 自動運転トラックによる幹線輸送サービスの実現に向け、走行技術・運行設計・安全確保等の観点から、T2 が取り組む最先端の自動運転技術開発の現在地と今後の課題を紹介する。

5/28 (木) 13:00 ~ 14:00

講師 株式会社 T2 技術開発本部長 辻 勇気 氏

日常使いにこだわった新世代 SUV 新型 CX-5

「新世代エモーショナル・デイリー・コンフォート」をコンセプトに人をワクワクさせるデザイン/走り、快適な室内空間/乗り心地、使いやすいインターフェイスなど採用し、徹底して日常使いにこだわった新型 CX-5 の魅力を開発責任者より紹介します。

5/28 (木) 15:30 ~ 16:30

講師 マツダ株式会社 クルマ開発本部 主査 山口 浩一郎 氏

地域交通 DX 推進プロジェクト「COMmmmons (コモンズ)」の取組

地域交通が直面している「サイロ化」の課題をどう解消し、持続可能な交通の仕組みをどのように築いていけるのか。「交通空白」解消を目指す国土交通省の新たな施策である地域交通 DX プロジェクト「COMmmmons (コモンズ)」の取組を紹介する。

5/29 (金) 10:30 ~ 11:30

講師 国土交通省 モビリティサービス推進課 総括課長補佐 内山 裕弥 氏

生成 AI がもたらす In Car Experience へのインパクト

Microsoft は世界最大の AI 企業として、変革を推進しています。本公演では、SDV 化が進む自動車業界の AI 活用から、車室空間 (In-Car-Experience) での AI 適用まで幅広いユースケースについてご紹介させていただきます。自動車会社に必要なクルマの商品価値についても提言させていただきます。

5/29 (金) 13:00 ~ 14:00

講師 日本マイクロソフト株式会社 モビリティサービス事業本部 モビリティ先進技術責任者 石黒 裕太郎 氏

スズキ初のバッテリー EV 「e ビターラ」の開発

スズキは 2026 年 1 月に同社初となる量産バッテリー EV (BEV) 「e ビターラ」を日本で発売開始しました。e ビターラは日本以外に欧州・インドを初めとするグローバルへ展開するスズキの BEV 世界戦略車の第一弾となります。本講演では、e ビターラの特徴や開発に込めた思い、主要技術などについて紹介します。

5/29 (金) 15:30 ~ 16:30

講師 スズキ株式会社 BEV B・C 商品統括部 第 1 カーライン チーフエンジニア 大前 陽平 氏